多様性を力に変え未来を拓く

DEIB推進宣言

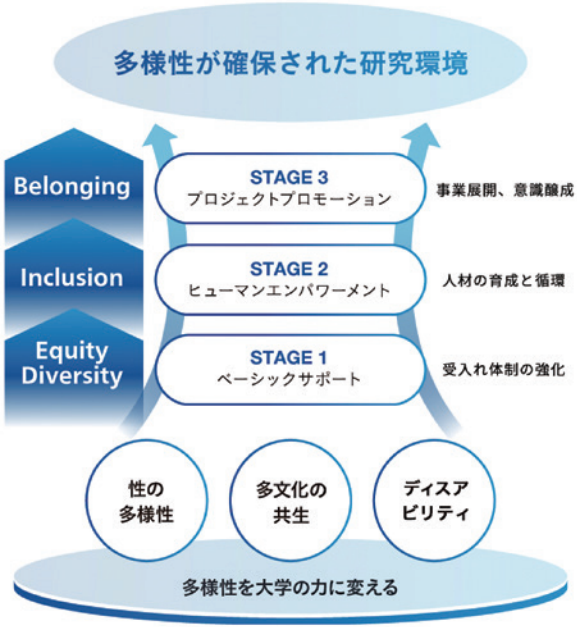
DEIB KU

2025年4月7日に「京都大学DEIB推進宣言」を公表しました。この宣言は、本学のDiversity、Equity、Inclusion、Belongingの考え方を示したものです。

京都大学DEIB推進宣言

多様性の尊重は、社会における基本的な価値であると同時に、大学にとって成長と発展の原動力となるものです。京都大学は、自由の学風の伝統のもと、型にはまらない思考を歓迎し育み、独創的な研究を生み出してきました。この伝統をDEIBの観点からさらに深化させ、異なるバックグラウンドや経験を持つ人々を積極的に受け入れることで、活力のある大学として信頼と期待に応えることを旨とし、「京都大学DEIB推進宣言」を掲げます。本学は、性別、国籍、身体的特性や、宗教、性的指向など、異なる視点や経験を持った多様な人を受け入れ、違いに応じた適切な支援（Diversity & Equity）の充実や互いに尊重し合い、それぞれの個性と能力を存分に発揮できる環境（Inclusion）の整備に力を注いでいます。さらに、多様な視点や価値観をただ受け入れるのではなく、それらを組み直し織り合わせることによって、深い理解と新たな価値が生まれます。開かれた対話や議論が展開される環境のなかで、自らのアイデンティティの一部として京都大学に愛着と誇りをもてる共創的なコミュニティ（Belonging）へと、深化させていきます。京都大学は、DEIBの理念を堅持し、多様性を力に変え、未来を拓いていく大学であることを目指します。

DEIBと3つのステージ



DEIB推進宣言に基づき、性の多様性、多文化共生、ディスアビリティの重点領域において多様な人材を研究環境とライフサポートの両面で支える「ベーシックサポート」、人材の育成と循環を促進する「ヒューマンエンパワーメント」、本学の取組を基にした他機関への事業展開・社会への普及を目指す「プロジェクトプロモーション」の3つのステージに応じた取り組みを進めていきます。

女性研究者・学生の顕彰

「京都大学たちばな賞」や「京都大学久能賞」の授賞も、若い女性研究者の励みとなり、受賞者が後に学外の重要な賞を獲得するなど、確実なステップアップを実感しています。また、2021年には、各方面でご活躍の京都大学出身の女性を対象に「京都大学ここのえ会」を設立してネットワーク構築を図り、女子学生・研究者への支援と女性活躍機会拡大や課題解決に取り組んでいます。



たちばな賞表彰式の様子



久能賞表彰式の様子



多様性に配慮した環境改善

誰もが安心して快適に過ごせるキャンパスの実現を目指し、2025年度より部局の生理用品設置費用を大学が支援する「生理用品設置支援事業」を開始しました。本制度により、2025年度は24部局・267箇所の女性トイレや多目的トイレで生理用品の常設提供が実現しました。

女性アカデミックリーダーシップ探求プログラム

女性研究者を対象として、国内外の女性学長や大学執行部層による講演、意見交換を通じて、大学運営における教育、研究の在り方や女性研究者のキャリアに関する多様な視点に触れながら、自身の観点からリーダーシップ像を考えるプログラムを実施しています。2025年10月からのパイロットプログラムを経て、2026年4月からは参加者が身近な課題の解決に向けた取組を実践する「実践プロジェクト」を実施しています。



障害のある学生への支援 https://www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/

京都大学において、学ぶことや研究することに障害（社会的障壁）が生じた時、どのような解決策や選択肢があるでしょうか。学生総合支援機構 障害学生支援部門（DRC）が、障害のある学生やその周囲の教職員、受験希望者の相談に応じています。専任スタッフが相談を受け、授業などでの合理的配慮の調整やノートテイク・移動介助等学生サポーターの派遣、AT（支援技術）の提供など、各種修学支援を行っています。これらの活動が評価され、2023年9月5日、「障害者雇用優良事業所等京都府知事表彰」を受賞しました。

Kyoto University Disability Resource Center



障害学生支援ガイドブック

京都大学における障害学生支援のシステムやDRCの紹介、各種障害に関する基礎的な知識・支援方法などを整理し、冊子として教職員に配布しています。実際に障害のある学生に対応する必要が生じた場合には、その都度、個別に相談していくことになりますが、手がかりとして活用しています。

フリーアクセスマップ

DRCでは従来のものとは少し異なる視点で情報を表示する方法を考え、マップを作成し配布しています。本マップは、主に車椅子利用者などの移動困難者の目線で作成したもので、従来のように道筋や設備の使用を限定し指示するようなものではなく、目的地までのバリア（障壁）を適切に表示することで、自らのスキルに合わせて道筋などを選択できるような形式にし、ネーミングも「フリーアクセスマップ」としています。



上記のコンテンツは、DRCのウェブサイトで公開しています。 https://www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/contents/

京大式障害者雇用モデル







全学的な障害者雇用の窓口として「業務支援室」を設置し、多様な職員がやりがいを持って働ける環境を整備しています。全学教職員から寄せられる多彩な業務支援をはじめ、就労支援機関と連携した本学独自の採用イベントの実施、障害開示を前提とした相互理解に基づく合理的配慮など、京都大学ならではの雇用モデルを展開しています。これらの取り組みにより、障害者雇用率は2026年に3.0%を達成。定着率においても1年目95%、3年目89%と、全国水準を大幅に上回る実績を維持しています。